

第3学年 総合的な学習の時間（昭栄タイム）学習指導案

平成16年9月30日（木）5～6校時

佐賀市立昭栄中学校 3年

授業者 貞包浩洋

1 第3学年総合的な学習の時間の学習テーマ

「国際都市の条件探し」（内容…「郷土」）

2 単元について

昭栄タイムは学校テーマを「国際都市佐賀を作るには」と設定し、各学年で単元（内容領域「郷土」）が計画されている。各学年で計画されている単元には系統性があり、3年生では佐賀を国際都市に発展させるための具体的なプランニングを行うために各学年でテーマを設定している。1年生では、国際都市づくりを踏まえて観光や工業、農業などの産業面から郷土のよさを見つめる。2年生では、京都を通して「国際都市」のイメージを膨らませながら、世界的に知られる名所旧跡等だけでなく、京都の新しい都市計画や国際都市に生きる人々の姿などを国際観光都市という側面から捉え、1年生で学習した佐賀のよさと比較する。3年生には、学年テーマを「国際都市の条件探し」と設定し、それまで積み重ねた学習を生かし、国際都市佐賀創りのプランニングを進めていく。このように昭栄タイムは郷土佐賀に目を向けさせることで、郷土への愛着をはぐくみ、郷土佐賀を国際都市へと発展させる具体的なプランニングをするという単元が計画されている。

さて、総合的な学習の時間に生徒が意欲的に学習を進めていくために必要なことは、単元のテーマ（以下、単元のテーマ等）に迫った課題設定ができること、学習のゴールに対する解決の見通しをもつこと、体験学習等で得た知識や技能が問題解決に生かされているという実感を得ることなどである。そのための手立てとして、本単元では、課題設定の段階で、教師の専門性を生かした講座（教科、領域等からアプローチ）と発想法を取り入れている。教科、領域等からアプローチとは、各教科等の担当教科から総合のテーマを踏まえて課題学習や体験学習を取り入れた独自の授業が仕組まれた講座のことである。各教師が教科、領域における専門性を生かし総合的な学習の時間で取扱う内容に関連づけながら、多様な情報を生徒に提示する。つまり、生徒は多面的な情報を得て豊かな創造力や発想力を生かし、課題を設定したり、問題解決をしたりして学習を進めることができる。また、発想法を取り入れることで、生徒は与えられた情報を生かして課題設定をする中で課題設定に一工夫されたり、見通しを持って問題解決を進めていくことができる。これらの手立てを取ることで、生徒の実態に応じて教師が意図した計画の基、生徒は興味・関心を高め、課題を設定していく中で、生徒の様々な能力を育てることができるものと思われる。

佐賀という地方は産業的にも文化的にも特に目立った所がなく、経済基盤もなく観光資源にも恵まれていない。昭栄タイムの系統的な学習の中で、そのような現状にある佐賀を国際都市へと発展させるためのプランニングは、生徒に「こんな郷土づくりをしたい」「佐賀がこんな街だったら」という夢や希望を持たせることができる。そこで、国際都市の定義を「観光（名所旧跡、イベント等）都市」「文化的（映画、音楽、国際会議等）な都市」「工業都市」「田園都市」「学術都市」の5つに規定し学習の見通しを立てさせたい。教科、領域等からアプローチした講座は、講座で得た情報が課題設定する際に表れたり、問題解決の流れの中に活用できたりする講座を開講したい。さらには、国際都市佐賀創りのプランニングを一人一人が進めることから、現実的なプランニングをすることにより、生徒が自分のプランを公表できたり、自らが実践できたりするようなものに仕上げさせたい。

3 単元の目標

「国際都市の条件探し」をテーマに、自ら課題を見付け、追究の方法や手段を考え、課題解決に取り組もうとする態度や能力を育てる。

4 学習計画（3年全80時間）

昭栄タイムの学年別学習ガイダンス【2時間】

- ・ 学校テーマ「国際都市佐賀を創るには」の基、1年「郷土のいい所発見」、2年「古く都京都と佐賀の比較」の学習を通して得た知識と問題解決学習の方法を確認する。
- ・ 先輩の学習物を例に学習の見通しを持つ。
- ・ 教科講座を選択するために、教科講座のオリエンテーションを受ける。

教科講座【各自2時間×2】・・・本時

- ・ 内部資源獲得のための教科講座を受講する。
- ・ 国際都市の条件を見付け、課題設定に生かすことができるようにする。

発想法スキル【4時間】

- ・ NM法（発想法）を最終課題に用いることが問題解決のために効果的であることを知る。
- ・ NM法（発想法）を用いた最終課題で問題解決学習を進めるために、そのスキル学習をする。

最終課題【8時間】

- ・ NM法（発想法）を基に作成されたワークシートの活用方法を知る。
- ・ ワークシートの沿って学習を進める。

発表・発信【62時間】

- ・ 今後の学習の見通しを立てるためのガイダンスを受ける。
- ・ 最終課題を具現化するための調査・探究活動や体験活動等を進める。
- ・ 企画書作成のためのパソコンスキル学習をする。
- ・ 企画書を作成する。
- ・ 企画書の校内審議会等の審査を受け、企画書の修正する。
- ・ 企画書のプレゼンテーションをする。

5 単元の評価規準

学習過程	教科講座	発想法スキル	最終課題	発表・発信
評価内容	A	B	B, C	C, D, E

評価の観点		評価規準
A	知識・興味・関心	国際都市としての条件を具体的に見付け出し、その事を中心に考察を深めようとしている。
B	思考・判断	国際都市の条件を満たすためには実際にどのように行えばよいか、その仮説を設定する。
C	発想・創造	国際都市佐賀を作るための仮説を独創的に具体化している。
D	表現・行動	自分の考え方をわかりやすく発表したり、詳しく報告書にまとめようとする。
E	忍耐・継続	課題に対して不明な点や困難にぶつかっても根気強く学習を継続しようとする。

6 本時の評価規準

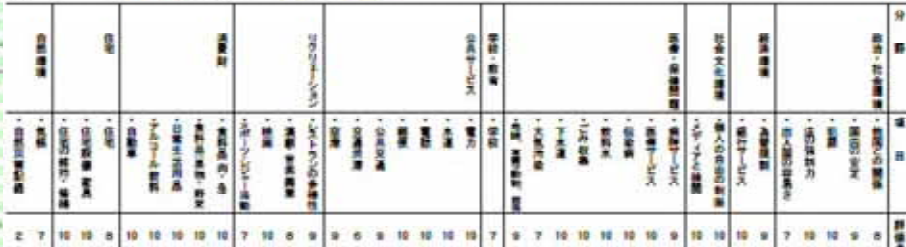
知識・興味・関心	「有明佐賀空港活性化プラン！」のプランニングの過程に興味・関心を示し、学習を進めることができる。
	テーマに迫る課題設定の仕方や、問題解決の方法に興味・関心を持ち学習を進めることができる。
	佐賀県内、または近県の観光事情を知識として得ることができる。
	企画書作成のポイントを知り、今後の学習の手がかりとすることができる。

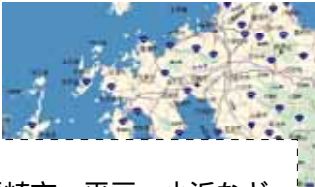
7 社会科教師からのアプローチ

佐賀には特に目立った産業もなく、観光地としての知名度も決して高くない。また、佐賀平野に広がる田園地帯は、単なる田舎町のイメージしか持つことができないとも言える。そのような郷土佐賀に対して郷土を愛する心をはぐくみ、佐賀の発展を願う心と発展の一端を自分なりに考えて実践する力を育てることは大切なことである。現在、佐賀県知事が打ち出している「アジアのハリウッド化計画」や「筑紫大都市圏構想」などが現実化して国際都市化する可能性も考えられる。しかし、生徒にはそのような大プロジェクトを考えさせるのではなく、国際都市としての成立要件の一部を具現化させたい。

さて、現在、有明佐賀空港は国内線4往復程度の離発着で施設の稼働率は極めて低いと言える。そこで、空港の立地条件（地図上は北部九州のほぼ中心、有明海沿岸の観光資源に海路で結びつけることができる等）を生かすならば、「北部九州観光の空の玄関口」のキャッチフレーズで新装開店させることで活性化が図れる。有明海沿岸の景色をホーバーの窓から望みながらの旅は話題性にも富み、各観光地の活性化にもつながり、人の往来も豊かになる。そうなれば、佐賀空港の利用客も増え、佐賀の国際都市化への一助を担うことになると考えられる。学習場面では、国際都市の定義について考えその項目から佐賀の国際都市化を探らせたり、九州の地理や観光資源等に目を向けさせたりしながら具体的なプランニングの過程に触れさせたい。

8 本時の展開

過程	学 習 活 動	形態	指導上の留意点	評 価
導 入	○ 本時の学習の内容を知る。 ・ 3 学年テーマ「国際都市の条件に迫る課題設定，課題を具現化させるための問題解決の方法を具体的なプランを基に学習することを確認する。	全	○ 本時の学習について説明する。 ・ 課題設定は，現実的なプランを立てることができるように設定することを知らせる。	
展 開	「国際都市佐賀としての条件を考える」 ○ 「国際都市」としてイメージできる都市をあげ，共通点や国際都市と言われる理由を探る。 国内都市…京都，東京，福岡，札幌，那覇など 海外の都市…アテネ，ロンドン，パリ，ロサンゼルス，シドニー，カイロなど ・ 「国際都市」の共通点を探る。 観光都市 (名所旧跡・景勝地) 文化的都市 (国際会議・芸術) 工業都市 学術都市 (研究機関・大学) 予備 ○ 国際都市づくりのための視点を 知る。  表-2 「生活の質調査」にみる横浜の評価 	個	○ 国内外の都市で「国際都市」としてイメージできる都市を発表させる。 ・ あらかじめ準備しておいた分類カードにイメージした国際都市をまとめる。 ・ 分類カードに当てはまる都市名があがらなかった場合はこちらから提示する。 ○ レクスパンション（フランス経済誌）に示された「生活の質調査」の項目や，「住みやすい町ランキング」を提示し，課題設定の参考になることを確認させる。	[興味・関心] ・ 国際都市佐賀の建設のために様々な国際都市との相違点をあげることができる [興味・関心] ・ 国際都市づくりのためのさまざまな視点を知る
開	○ 佐賀を国際都市へ発展させる要件について考える。 吉野ヶ里，有田陶器市，嬉野温泉，虹ノ松原，パレンフェスタ，唐津くんち，その他 ○ 国際都市の成立要件にさまざまな項目があることを資料「住みやすい町（フランス経済誌レクスパンション）」で確認する。 ○ 教師のプランを聞く。		○ 佐賀の観光地，施設，イベント等をあげ，分類カードに当てはめさせる。 ・ 佐賀の観光地等を，国際都市の足がかりにするには現実的でないことに気づかせたい。 ○ 国際都市として発展させるためにさまざまなアプローチがあることを確認させる。 ○ 提示するプランは佐賀の実状を踏まえて空港の利便性と有効活用に着目したものであることを知らせる。 ・ 「北部九州観光の空の玄関口」構想で空港の活性化を図るための思索であることを確認させる。	

過程	学 習 活 動	形態	指導上の留意点	評 価
展 開	『「有明佐賀空港活性化プラン！」 ～国際都市佐賀建設のための現実的なアプローチ～」を考える』			
	○ 有明佐賀空港の現状を知る。 ・ 有明佐賀空港の定期便利用一覧から便数の少なさに気づく。 ・ 佐賀の産業の現状から利用客数拡大を佐賀県内に求めることは厳しいことに気づく。 ○ 「有明佐賀空港の定期便を増便させる！」をグループごとに話合う。 ・ 北部九州の観光地への発着基地としての空港運用を話し合いの焦点とする。 ・ 話し合った内容を報告する。 《空港から観光地へのアクセス》バス、タクシー、JR、小型旅客機、ヘリ、ホーバークラフト 《近県の観光資源》長崎市、ハウステンボス、雲仙、九十九島/熊本市、天草、阿蘇福岡市、スペースワールド ・ ホーバークラフトについて資料を基に説明を聞いて確認する。   ○ 有明佐賀空港の地理的条件を写真資料と地図資料で確認し、北部九州観光の空の玄関口に相当であることをイメージする。 ○ ホーバークラフトでのアクセス可能な観光地をグループで模索し、その観光ルートをプランニングする。 《ホーバーでアクセスできそうな観光地》熊本市、天草、雲仙、ハウステンボス、長崎市、平戸、小浜など 《有明佐賀空港を生かした観光ルートの例》有明佐賀空港 - 吉野ヶ里観光 - 熊本市・阿蘇観光 - 益城熊本空港 長崎空港 - 長崎市観光・ハウステンボス（ホーバーにて） - 有明佐賀空港	個 G	○ 有明佐賀空港の定期便数の少なさと佐賀の産業の現状を提示する。 ・ 定期便の増便が空港利用客数を増やし、ひいては、国際都市への足がかりになることを確認させる。 ○ 話し合いには、プランに伴う経費が低コストであるということと、北部九州の観光資源と空港を結びつけることを知らせる。 ・ グループ報告にプランとしての有効性が高いものについては取り上げて今後の学習につなげる事ができるよう全体に具体性を高める案を問う。 ・ 予め準備しておいたプランを提示し、低コストで近県観光資源を抱き合わせた、話題性、利便性を兼ね備えたプランであることを確認させる。 ・ 資料を配布し、ホーバークラフトについて説明する。 《機体単価、波止場建設費用、輸送能力など》 ・ 多くの生徒はホーバークラフトに関する知識がないと思われるので、大分空港のホーバークラフト運行の様子などを提示してイメージを膨らませる。 ○ 有明海から見る沿岸の景色などを地図資料を基に想像しながら、佐賀県内の観光地を含めたアクセス可能な観光地やその観光ルートを考えさせる。 ・ アクセス先の波止場の都合等は特に考慮させない。  	[知識] ・ 交通手段と北部九州の観光地、ホーバークラフトに関しての知識を得る

過程	学 習 活 動	形態	指導上の留意点	評 価
まとめ	○課題『「有明佐賀空港活性化プラン！」～国際都市佐賀建設のための現実的なアプローチ～』をプランニング化した企画書を確認する。 ○振り返りカードを記入する。	個	○予め準備しておいた企画書を確認させる。 ・本企画はホーバークラフト運行に関して解決しなければならない課題があることを知らせる。 ・企画を提案する時には，現状での問題点，問題点解決のための思索と具体的プランや予算上の課題などを分かりやすく提示することが大切であるといことを説明する。	[知識・興味・関心] ・企画書のデザインを確認する。